

同窓会便り

発行
東北大学・電気・通信・電子・情報同窓会
仙台市荒巻字青葉
TEL 22-1800
発行責任者
高野知彦
(題字 高野知彦氏)

小池先生御逝去

高野知彦



東北大学名誉教授小池勇二郎先生は昨年十月七日十五時御逝去になりました。痛恨哀惜の情に耐えない次第であります。

先生は昭和六年電気工学科を卒業され、直ちにNHKに入社し、主として調査や設計の業務に従事した後、昭和十六年退社して東北大学助教授となり、通信工学科及び電気通信研究所に於て研究に従事し、昭和十九年教授、昭和三十三年電子工学講座を担任、昭和三十五年からは初代教授として電子工学科の創設に尽力された。この間電気通信振興会の理事として通研及び電気系学科の研究振興に尽力され、又半導体研究

振興会の設立にも積極的に応援を惜しまれなかつた。昭和三十七年松下幸之助社長の懇望に答えて松下電気産業の取締役に就任し、常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所を創設し、社長としてその運営発展に尽くして来られたのであった。

昭和三十三年頃の我が国の電子機器の輸出は、ミシンの輸出額とほぼ同じで、全輸出の六・八%、西独の四・六%に過ぎなかつた由である。その後日本の電子産業は次第に発展し、やがて急激に伸び、約二十年近く経たずして昭和五十年には昭和三十二年頃の百二十倍になり、自動車、鉄鋼と共に輸出の割合で、通院され、検査を繰り返しておられたが、五十一年十月、どうも胃の調子がおかしくと話され、レントゲン検査の結果、幽門閉塞という診断で、速刻入院、手術ということになりました。手術の結果、外科的治療は手遅れであるということになり、薬物による化学療法に変更され、約一年間の闘病生活が続きましたが、ついに不甦の人となつてしまいました。その間、十二月、三月、九月と、何度も危機がおとすれましたが、先生の強い精神力と、薬効により、死線を乗り越えられました。

特に三月末から四月にかけての危機には、器関係の精密検査を受けられましたが、結局はつきりした不調の原因が判明しないまま、退院になりました。その後、一〜二週間に一回、ただ簡単に、新潟高校の先輩だからという発想だった。以来、三十有余年、影になり表になりご指導ご教諭をいただき、私が今あるのも先生のお蔭だと思ひます。

先生は慎重、果敢にして冷静な人だった。例えば戦前、研究所の疎開があったが、先生の慎重な企画性と果敢な行動力はいかんなく発揮された。私は疎開先で寮長をしていたが、食糧確保などまかせ切りで、時折指導なさった。後半も先生は余り研究室に見えず、遠くで指導された。そこいらが上手な先生だ

思師 小池勇二郎先生

を偲ぶ

美山 悌二郎

小池先生との出会い

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和六年、東北大学に入学。通信工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和六年、東北大学に入学。通信工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和六年、東北大学に入学。通信工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和六年、東北大学に入学。通信工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和六年、東北大学に入学。通信工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和六年、東北大学に入学。通信工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和六年、東北大学に入学。通信工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

麻生先生は、昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

麻生先生は、昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

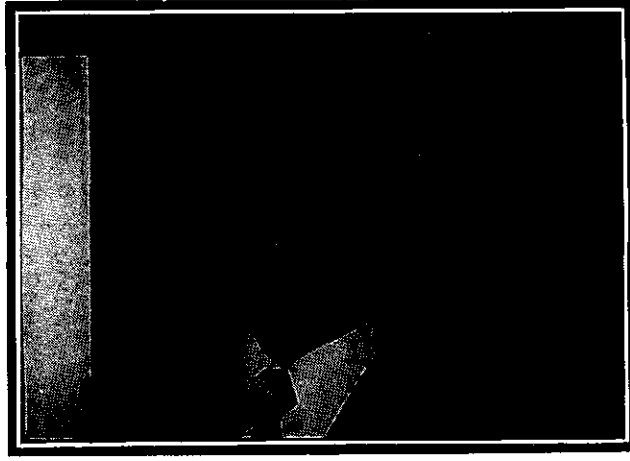
先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

先生は昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

麻生忠雄先生を偲ぶ

後藤 幸弘



早いもので、麻生先生が亡くなられてからもう一年近くになります。私達が深く敬慕する麻生先生は、昭和五十二年十一月十二日早朝仙台厚生病院において胃がんのため逝去されました。まだ五十一才の若さで、これからはもっと多くの事を御指導いただき、電気工学科の電力エネルギー関係の中心として御活躍していただきたかったです。

先生は、昭和五十二年、仙台市荒巻字青葉に生まれました。幼少より、父の薫陶を受け、学業に専念し、東北大学に進学。電気工学科で学び、卒業後、NHKに入社。調査や設計の業務に従事し、その後、松下電気産業の取締役に就任。常務、専務を経て、株式会社松下東京技術研究所の社長となり、その運営発展に尽くされた。

坂山平一先生の胸像贈呈事業について

城戸 健一

坂山平一先生は、大正二年に東北大学電気工学科の創設者の一人として仙台に赴任され、以来、四十余年の長年にわたって、電気系学科・研究所における教育・研究に、身を以て尽くされ、その功績は、電気系学科・研究所におけるベクトルパワー不生成の法則の証明、ポインティングベクトルの概念の創設、ラグランジュの運動方程式の電磁・力学系への拡張による電力変換理論の創設等の研究業績は、今も、私共の研究の源流になっております。また、通信研究所と通信工学科の創設は、今日の大電気系の発端を作られたものであり、八木秀次先生の電気工学科創設と並ぶ功績であります。この坂山先生の胸像を電気通信研

第十一期日本学術会議
会員選挙について
佐藤 利三郎

昭和五十二年十月に第十一期日本学術会議の選挙が行われ、十二月一日に新しい会員が決定しました。第五部(工学)全国区定員二十三名に立候補者二十八名、内専門電気は八名の多きを数え、特別特別委員会(佐藤)第五部会、学術体制(大泉)、研究費(大泉、佐藤)、科学研究計画(大泉)、エネルギー・資源開発問題(二村)、WFE(二村、佐藤)、研究連絡(佐藤)各小委員会でありました。

日本学術会議として、科学者、有権者の関心が高まらない現状を謙虚に受けとめ、国民の寄せる批判と期待に応えるべく一層の努力をする方針での活動要綱を決定しております。同窓会各位の御批判と御支援を賜りますよう御願する次第であります。



